

## 第3回 郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

### 議事概要

日時：平成27年9月7日（月）

13:30～15:30

場所：郡山市中央公民館2階 第5・6講義室

#### ○開会

司会) ただいまから第3回郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議を開会します。本日は小川委員、本部委員、三森委員が欠席されております。始めに阿部政策開発部長よりご挨拶を申し上げます。

#### ○郡山市挨拶

政策開発部長) 本日はありがとうございます。報道でお聞きかと思いますが、国のまち・ひと・しごと新型交付金の来年度予算の概算要求が1,080億円ということで、少ないなという印象を持たれたかと思いますが、交付金を受けるためには人口ビジョン、総合戦略を策定しなければならないということでよろしく願います。次回、第4回目の会議にはプランの案をお示しして、ご意見をいただく形になろうかと思っております。本日は忌憚のない意見をいただき、プランに反映させていきたい。

#### ○座長挨拶

司会) 続きまして内藤座長よりご挨拶をお願いします。

内藤座長) 第3回目ということでよろしく願います。座長の任を果たしているかどうか疑問ですが、できるだけみなさんのご意見を承ることを重視して進めていきたい。結論として人口問題をどうするかということはあるが、郡山市をどうするかという視点で意見を頂ければ幸いです。

#### ○議事(1) 市内の優良事例について

##### ①大和田野委員

優良事例になるかどうかかわからないが、私どもの活動内容についてご紹介させて頂く。

産総研は常勤の研究職員のほか、様々な大学や企業から研究員を受け入れている 9,000 人規模の研究機関で、全国に拠点があるが、郡山市に立地している「福島再生可能エネルギー研究所(FREA)」は 10 番目の最も新しい研究拠点になる。FREA は東日本大震災を契機として、被災地に新産業の集積により復興に貢献するために設立された。FREA は計画に 2 年半、工事は 1 年という短期間で平成 26 年 4 月に郡山西部第二工業団地内に開所した。面積は 7.8ha、人員は 380 名のうち約 250 名は企業や大学からの受け入れ。研究内容は再生可能エネルギーの大量導入を目指す技術開発。

研究は大学や企業との連携や地元との連携に力を入れて進めており、海外の企業や研究機関との連携も行っている。被災地企業のシーズ支援プログラムとして、再生可能エネルギーに関する実証実験や実用化に向けた共同研究を進めており、被災三県でのべ 63 件 (33 社) のプログラムを立ち上げ、一部は成果を生かして事業化につながっている。そのほか、地元銀行との連携による事業化の支援、技術交流や展示会の開催、外部の展示会にも積極的に出展し、再生可能エネルギーに関する研究成果の発信を行っている。

将来を担う人材の育成にも取り組んでおり、地元の日大工学部、東北大学、会津大学、福島大学等との共同研究や研究者の受け入れ支援を行っている。そのほか出前講座や海外の大学からの研修受け入れなども行っている。

研究成果を広く知っていただくため、情報発信にも積極的に取り組んでおり、成果報告会には 500 名規模の来場者が訪れた。昨年度はのべ 5 千人の方が見学や視察に訪れた。極力視察等は断らないようにしており、市には送迎バスの手配等で大変お世話になっている。

職員の市内における生活については、単身者が多いという話をしたが、家族とともに市内に移住した職員もおり、婚活中の職員もいる。地元における様々な活動に積極的に参加するように支援を行っている。

最後に、私どもの研究所に多くの人が集まり、働き、一部は定住する事を願っており、それが郡山に研究所ができた大きな理由だと思っている。住む人が増えるためには、私どもの活動を通じて雇用が創出されること、まちの過ごしやすさや魅力をアピールすることが大事だと考えている。

内藤座長) 何か質問があれば承ります。なお、婚活事業は商工会議所で行っておりますので後でご案内いたします。ありがとうございました。続いて小松委員から発表をお願いします。

## ②小松委員

福島大学うつくしまふくしま未来支援センターで、普段は放射性物質対策や営農再開、農産物流通にかかる風評被害対策などに取り組んでいる。今回は大学としての取り組みというよりも、私の専門である農業経営学の観点から地方

創生は農山村にとってチャンスであり、パラダイムを変えるきっかけと捉えて、農山村でどのような議論が行われているかといったことを紹介したい。

郡山市データブックからわかる通り、郡山市は市街地部と農山村部で人口密度、人口動向、人口構成が異なる。農山村部では市街地よりも人口の減少、過疎化と少子高齢化が進んでいる。

そうした中、全国町村会では「都市・農村共生社会の創造」の中で、農山村が果たせる役割があるのではないかという提言を行っている。このなかで、「再生可能エネルギーの蓄積」「災害時のバックアップ」というのは分かりやすいが、「新たなライフスタイル、ビジネスモデルの提案の場」「少子化に抗する砦」は生産年齢人口の減少や少子高齢化と矛盾するように見えるが、どのような議論でこのような提言が出てきたかということを紹介したい。農水省の食料・農業・農村白書（2014年）で、内閣府の世論調査から農山漁村への回帰志向が強まっていて、農山漁村で暮らしたい人の年齢構成が若者・子育て世代にシフトしていることが紹介されている。実際に、西日本を中心にそのような変化を表す事例が出てきており、移住者の実態をみると20～30歳代が多いこと、女性の割合が上昇しており、夫婦・単身・シングルマザーが増えていることがわかった。この会議でも、仕事がないので人口が流出するという話があったが、最新の働き方としては「パラレルキャリア」というものがある。島根県移住者の約3割が多業になっており、夫婦で年間60万円の仕事を5つ集めれば農山村で暮らせるので、仕事があるところだから住むのではなく、魅力的な地域に住んで仕事は自分で作るというという考え方がある。

移住者が増えている地域では、単に人口を増やすことだけではなく、地域を磨く取り組みが行われており、「内発性」「多様性」「革新性」を重視していることが共通している。また、成功にいたるプロセスとしてボトムアップによること、5年間程度の時間をかけること、ワークショップなどの基礎的な方法を重視しているという共通点がある。現在、本市を含めて急いで総合戦略の策定を進めているが、理想の寄せ集めでは計画を作って終わりになってしまう。計画は計画としてボトムアップの計画を作ることが重要。福島大学では職能教育プログラムとして社会人大学院生の受け入れを行っており、コミュニティ活動に取り組んでもらっている。

都市としての郡山市のあり方については、配布資料のSWOT分析にもあるように、郡山市は東京と仙台に挟まれた地方都市であり、都市としての利便性や独自性を高めるには限界があり、豊かな農山村に囲まれた都市であることこそが郡山市の魅力の源泉であると考えれば、農山村の魅力を磨くことこそ郡山市の魅力づくりになるのではないか。人口を増やすことだけを目的にするのではなく、食を通じて郡山市全体の一体感を醸成することや世代間交流を農山村で

行うこと、豊かな自然のなかで音楽を聴くなど文化的な活動を自然環境のなかで行ったり、美味しい料理を食べながら文化的な活動を行うことも考えられる。

こうした活動は市民の主体性や価値観を尊重する必要がある、成果が出るまで一定の期間がかかることを行政としても理解してほしい。地域の主体的・実践的な活動を時間をかけて行うと長期的な費用対効果は非常に大きい。数百万円でびっくりするような成果を挙げている自治体もある。

内藤座長) 農村部から活性化をしていこうという大変興味深い新しい切り口を示していただきありがとうございます。続いて首藤委員からお願いします。

### ③首藤委員

郡山市内で子育て支援を行っている NPO 法人ココネット・マムの代表を務めている。有識者ということではなく、子育て支援に 12 年間関わってきたなかで聞いてきた親子の声を伝えたいということで参加している。今日は NPO 法人を作ったきっかけや活動内容の紹介をさせていただきたい。

ココネット・マムは 40 人の会員で運営しており、郡山市からファミリーサポートセンター事業の委託を受けて、ニコニコ子ども館の中に事務所を借りて運営している。利用者は 800 名ほど。子育て中の母親のネットワークを広げること、一人ひとりを大切にすることをモットーに活動をしている。

会を立ち上げるまでの保育サービスは働いている親のニーズも、子育てのために仕事ができない親のニーズも満たしていなかった。子育て中の母親がいつでも頼れるような相手がおらず、苦しんでいる中で行政が問題を解決するまで待ってられなかったので、自分たちでできることをしようということで会を立ち上げた。子どもを中心に活動しようと考えていたが、子育て中の親、それを手伝う祖父母、子育て支援者といった子どもを取り巻く大人の気持ちに寄り添ってニーズを聞くところから始め、「子どもが安全で楽しい支援」「親が安心して子育てできる支援」「支援者が安全で安心して参加できる支援」を目指している。

郡山市の学童保育ではできていないことだが、学校を限定せず、習い事への送迎も行う学童保育事業を実施している。時間の延長や休日、長期休みの期間の保育や単発での利用にも対応している。質の高い保育サービスを提供できるように研修の充実も図っている。子どもには群れて遊べる場が必要。親が安心して後ろめたさを感じずに働きながら子育てができるようにしたい。支援者も子育て中の親を応援することで満足感を得られ、子どもとふれ合うことができる。

育児サポート事業では、双子の片方が病気になった時にもう片方の子の面倒をみたり、子どもが生まれてからの結婚式をする場合の子どもの面倒を見るな

どの多様なニーズに答えている。こういう多様なニーズは親を取り巻く現状を反映している。多様化するニーズに対応したサービスを提供できれば、もっと子どもを産もうという母親も出てくる。育児サポートを通じて、子どもは家族以外の大人と触れ合えたり、子ども同士接することにより成長ができる。支援者は満足感を得ることができる。

核家族で子育てを学べない親に学びの場を提供したり、子育て支援者がスキルを向上し、最新の子育て事情を知ることができるイベントの企画運営を行っている。

4つめの柱として、行政とつながることで行政だけ民間だけではできないことを実現するため、委託事業を行っている。福島県、郡山市にはまだまだ子育て支援の団体が少ない。私たちだけではなく様々な団体ができないと支援が行き届かないと考えている。委託事業を通じて情報の収集を行うことができ、組織の基盤を高めることができる。

ココネット・ママで働くスタッフも子育て中の親が多い。出産子育てのステージに応じて働ける時間に働いてもらえるような仕組みを作りながら仕事をしてもらっている。そのような働き方でも団体がやっていけるということを実証したい。働きながら子育てをしている母親からは病児保育をしてもらいたい、仕事の都合で延長保育をお願いしたいなどの声があるが、家族や親族、職場の人たちの理解と手助けを受けながら子育てができるような社会になっていったらいいと思う。

内藤座長) スタッフの人数と行政からの支援内容についてお伺いしたい。

首藤委員) 常勤のスタッフは40名程度。行政からの支援は委託事業の対価をいただいている。

- 議事(2) 第1・2回会議での意見の概要について
- 議事(3) アンケート調査の結果(速報)について
- 議事(4) 郡山市の将来人口について
- 議事(5) (仮称)郡山市総合戦略における基本目標(案)について
- 議事(6) (仮称)郡山市人口ビジョン・郡山市総合戦略策定スケジュールについて

内藤座長) 続いて、事務局から一括して資料説明をお願いします。

事務局) 議事に入る前に、参考資料について説明したい。郡山市では産業競争力政策会議を設置している。8月に分科会を行ったので、そちらでの議論の内容をご紹介する資料をお配りした。もう一つ参考資料として郡山データブックをお配りしたのでご活用いただきたい。

※議事(2)～(6) 関連資料一括説明(略)

内藤座長) ここで皆さんの意見を順番に伺いたい。

上田委員) 資料5について。資料4で示されていた郡山市ならではの課題としての震災による人口減ということが資料5の内容に組み込めていない気がする。被ばく防護対策は対象ではないということだと思うが、あえて外したほうがいいのか。

事務局) 新型交付金のためと割り切ってしまうと、除染やハード面の整備は交付金の対象外なので入ってこない。郡山市の実情を反映するという話であれば、当然復旧復興の話は入ってくるので、戦略の前文としては記述することになる。交付金にはつながらないが考え方としては書きたいと思う。

上田委員) 例えば、安全・安心なまちづくりというところに反映すればよいのではないか。

事務局) そのようにさせていただく。

上田委員) あえて入れないようにしているのかと思ったので確認した。

内藤座長) 震災で減った人口を取り戻すということはどこかで言っておいたほうがいい。

上田委員) 今回の計画ではなくて他の計画で対応するというような事情でなければ。

内藤座長) 続いて大和田野委員。

大和田野委員) 資料5の「目指すべき方向性」について。就学・結婚・子育て年代アンケートの問19で「親族に育児に関わってもらっている」という方の比率が高いが、郡山市の特徴かと思う。例えば、つくば市ならほとんど核家族なのでこんなに高くはないだろう。一方で問3では祖父母とは離れて住むのが理想だと考えている人が多い。このあたりの意識と実態の乖離をうまくかみ合わせていければと思った。

内藤座長) 文言としてどうするかというのは難しいが、参考にしていれば。続いて小松委員。事例紹介に付け加えるところがあれば。

小松委員) 資料5の重点分野Ⅲの「定住・交流人口の増加」、Ⅴの「安全・安心なまちづくり」という部分に関連してくるのかと思う。短くまとめるとこのような方向性になるのかと思う。

内藤座長) 小松委員の今日の話をもとに、外から来る人も新しい市民として考えるべきではないか。現在の市民が豊かに暮らすということだけではなくて、市民の範囲を広げるという考え方があってもいいのかなと思った。

小松委員) 「市民自身による内発的な動きを支援する」といった項目を入れたほうがいいのか。

事務局) IVかⅤですかね。

佐藤委員) 資料3のアンケート集計結果は速報ということだったが、男女別だけでな

くて既婚者と独身者が混じっているところは分けて集計してもらえればと思う。違和感を感じる項目がいくつかあった。資料5の産業の活性化については農業も含まれているようだが、農業の位置付けはこれでいいのかという疑問を持った。

内藤座長) 続いて首藤委員から。

首藤委員) 資料5のⅣの「子育て支援」の対象は何歳までの子どもを対象にしているのか。子育てが大変なのは小学校・中学校年代。これまで施策が充実されてきて切れ目はなくなりつつあるが、行政の担当部署が子どもの年代によって変わるので窓口がたらい回しになる状況がある。同じような施策を別々の課でやっているような状況も見受けられるので、切れ目のない支援を目指すのであれば一貫したサービスの提供が必要。未就学児の保育にばかり目が行きがちだが、放課後の子どもの保育が不足している状況にある。

内藤座長) 抽象的な言葉になっているので対応しているのかどうかわかりにくい面はある。続いて竹内委員の代理で佐藤さん。

竹内委員代理佐藤) 最終的な就業機会の創出につながる話だが、資料2-2の長所にもある事業集積という面をどこかに入れてもいいのかと思う。資料4の将来人口について、震災後転出した女性が戻っていないということについて、何らかの取り組みが必要ではないかと感じた。

内藤座長) 続いて丹野委員。

丹野委員) 短い文言なので難しいとは思いますが、資料5のⅡの就業機会の創出の部分でどのような産業で就業機会を創出するのかということが具体的にイメージできるようにしたい。Ⅳの部分で子育て支援の話はあったが、働きながら高齢者介護を続けるのが難しいという話もあるので、高齢者福祉の話になると健康長寿の話になるが、歳をとれば要介護者になるので介護支援の視点も必要。

内藤座長) 私の近くでも介護退職をした方がいる。

丹野委員) 働き続けるためには子育て支援以上に介護支援は大きな問題。

内藤座長) 農業の話も出ましたが、藤田委員。

藤田委員) 資料5について、短い文言で難しいとは思いますが、Ⅲで「豊かな地域資源」とあるが、豊かな地域資源はどこにでもある。郡山市ならではの独自性を入れられたらいいと思う。このままだとどこでも使える計画になる。小松委員から話があったように、都市と農村がバランスよく存在しているのが郡山の良さなので、そこから生み出される地域資源というニュアンスを入れて、できるだけ郡山の良さを文言の中に出していきたい。

内藤座長) 続いて松原委員。

松原委員) 資料3のアンケート結果については転出しても郡山市に戻りたいという人が思った以上に多いと思った。資料5については目指すべき方向は分かったが、

これに沿って事業を盛り込めるのかどうかというところだと思う。

内藤座長) 最後に吉田委員。

吉田委員) 資料5について。日本全体がそうなのかもしれないが、子育てしながら働く人たちが長時間働いているということもあって、家族のコミュニケーションが取れないという問題があると思う。市役所でも結構遅くまで灯りが付いている。定時で仕事を終えて人間同士のふれあいができることが理想。若い人たちのニーズに合うような店を増やして働く場が増えるのはいいが、その分土日関係なく労働時間が増えていくのでは仕方がない。郡山に限ったことではないが。

内藤座長) 私からは2点。1点目は、アンケートで現実の子ども数と希望子ども数の差が1.4という話があった。東京に住んでいる娘が3人目の子を産んだが、私の妻(子の祖母)が3ヶ月東京に行きつきりになっている。夫婦以外に誰かがいないと3人目を育てるのは無理ということ。下の娘は郡山で住んでおり妊娠中なので子どもをココネット・ママに預けている状態。もう一人産んでもらうためには何をしたらいいかという視点で考えてみたらどうかということ提案したい。

2点目は教育について。大学や専門学校等に聞くとなんらかの教育支援を受けてきた子が半分以上とのこと。子どもを大学に行かせると年間数百万円かかるので奨学金を使うが、就職するといきなり返還が始まるのでお金がないという酷な状態になる。奨学金の返還をしている人が郡山市で働いたら、何らかの助成や優遇があるということであれば、郡山で働く人が増えるのではないか。今郡山にいない人が郡山に戻ってくる、あるいは都会の女性が移住してくるといような視点も必要かと思う。首藤委員、何か言い足りなかったことはありますか。スタッフが多くないと、サービスが十分提供できないということもあるのかと思うが。

首藤委員) 郡山市は広いので、私たちのような団体が小規模でもたくさんあちこちにあればよいと思う。託児サービスについても湖南や熱海だと断らざるを得ない。地域ごとに活動団体がないと難しい。

内藤座長) 担当課は違うと思うが、郡山市としてはどうか。

事務局) ココネット・ママさんはニコニコこども館で活動していただいているが、市としては子育て支援施設を東西南北4箇所を整備を進めているので、子育て支援施設を拠点として活動していただければと考えている。

藤田委員) 熱海に住んでいますが、学童保育がないので放課後児童クラブを来年から始めようとしている。放課後児童クラブではスタッフに時給540円しか払えない。統廃合で使われなくなった幼稚園を活用する。

内藤座長) 540円というのは市で出すお金のことか。

藤田委員) 学童保育指導員を市から派遣してもらうには15人以上の子どもを集める必

要がある。任意の放課後クラブではその制限がない代わりに市からの保育員の派遣は受けられず、市からは時給 540 円の人件費が支給される仕組みになっている。

首藤委員) 学童保育は条件を満たしていれば年間 150 万円の運営費を 190 万円に増額できる制度が今年度から始まったが、郡山市ではまだ対応していない。指導員の報酬が増えればやる気のある指導員が増えて保育の質も上がる。放課後児童クラブは報酬が少ないので事実上ボランティアによる運営ということになっているが、何かあった時に責任を問えないという問題もある。

内藤座長) 民間がやった場合の時給はどのくらいか。

首藤委員) ココネット・マムの学童保育スタッフの時給は 800 円。大変だがなんとかやりくりしている。

内藤座長) その間を埋める努力が必要ということ。利用料はどうなっているか。

首藤委員) 利用料は頂いている。

藤田委員) 放課後児童クラブは利用料無料。

内藤座長) 創業支援に関わっているが、民間サービスと公的サービスのギャップがあって、需要が満たせていないこういったサービスは女性の起業に向いている。豊かな自然はあっても、病院がなかったり子どもを預けるところがないのでは困ってしまう。農村地域に移住者を増やすという小松委員からの提案があったが現実的に成功しているところはあるか。

小松委員) 行政による移住支援もそうだが、移住の成否は受け入れる側の人の意識や外部の人を受け入れられる開かれた地域であるか、といったことにかかっている。住宅や制度が用意できれば移住が増えるということではなく、交流の積み重ねの実績があったうえで行政の支援が加わって都市部からの移住者が増えるというステップがある。市民が地域を作るという意識や長期間にわたる「地域磨き」が行われた上でないと実現は難しい。何か足りないものを埋めるような行政支援ならどこの地域でもやっている。

内藤座長) そろそろ時間ですが、なにか言い残したことがあれば承ります。

佐藤委員) 総花的になっている面があるので、郡山の歴史とか自然、産総研などを生かした郡山ならではの地域戦略がないと難しい。

内藤座長) 郡山と書いてないと分からないといった内容になってはいけない。

大和田野委員) 見直していると国の施策と一緒にしている部分が多いので、特色を出すことが必要。

内藤座長) 国の施策を受け継がざるをえない面があるが、郡山の特徴を出すことがどこまでできるかという話。

丹野委員) 上田委員からもあったように、安心・安全なまちというのは入れておきたいと思う。震災から 4 年半が経って防災への意識が風化しつつあるが、郡山は

大水害を経験したまちでもあるが、地球温暖化等に伴う異常気象の中で今後、大水害のリスクは高まっていく。時間のかかる話ではあるが、自助・共助・公助というように市民の防災意識の向上というのが必要になっている。郡山が地震に強いという神話も東日本大震災で崩れたので、防災についてもどこかで言及してほしい。

内藤座長) 水害にも強いと言われていた。地震については郡山だからこの被害で済んだという言い方もできる。市も「セーフコミュニティ」を掲げているので、それに絡めてなにかを取り上げてほしいかと思う。本日頂いたご意見については事務局で取りまとめて頂いて結果に反映していただきたい。内容についてはよく検討してください。

○議事7) その他

司 会) 委員の皆さんから何かなければ、事務局から連絡事項等あれば。

事務局) 次回の第4回有識者会議については10月下旬から11月上旬を予定している。人口ビジョンの素案を示したいと思うが、近くなったら日程調整へのご協力をお願いしたい。アンケートについては詳細な集計を進めているので、第4回の前にメール等で集計結果をお送りしたい。

最後になるが、本日の会場の中央公民館は震災復旧ということで今年4月にリニューアルオープンした。開放的な建物で内外の評価も高い。窓を開けてテラスに出ることも可能で、屋上には展望台もあるので、お時間のある方はご覧いただきたい。

○閉会

司 会) 以上をもちまして第3回郡山市まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議を終了します。長時間にわたりありがとうございました。